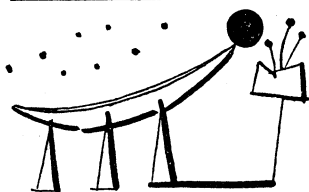


論文誌梗概



(Vol. 27 No. 10)

■ 拘束条件の構造を考慮した整合ラベリング問題の解法

塩澤 恒道 (筑波大学)

西原 清一 (")

池田 克夫 (")

整合ラベリング問題は、複数個の構成要素から成る対象を解釈するのに、まず、各構成要素に対して局所的解釈の候補を求め、それらの中から対象物全体の矛盾のない解釈を求める問題である。このような問題は、画像処理や人工知能など多くの分野に見いだされる。この問題に対しては、従来より、大別して、バックトラッキングを用いた木探索による解法、弛緩操作や拘束伝播を用いたフィルタリングによる前処理を含む解法の二つが示されている。本稿で示す解法は、これらの方法とは異なり、動的計画法の手法に基づくものである。すなわち、まず、拘束条件の構造に注目して、与えられた問題をより小さなサイズの問題に分解する。そして、それらより得られる複数個の部分解を矛盾なく結合することによって全体の解を得ようというものである。ここでは、分解された小問題のサイズを表す front 指数を導入し、与えられた個々の問題に固有の front 指数をもとに計算量を評価した。さらに、与えられた問題の分解と front 指数に関する幾つかの性質について述べ、front 指数が下限をとるような最適分解を求めるアルゴリズムを与えた。

■ Runge-Kutta 系の 6 段 6 次極限公式及び 6 段で数値的に 6 次の公式

小野 令美 (都立農芸高校)

常微分方程式の初期値問題 $y' = f(x, y)$, $y(x_0) = y_0$ の数値解法の一つの陽的 Runge-Kutta 公式では、5 段以上の場合その段数以上の次数の公式は得られないことが知られている。しかし、関数計算を行う x の

分点のうちある二つを近付けた極限で考えると、5 段で 5 次、6 段で 6 次の公式となる。そのような公式は必然的に f の 1 階の導関数を含むことになる。このように二つの分点を近付けた極限で考えた公式を極限公式と呼ぶ。本論文で一つの一般的な 6 段 6 次極限公式を示す。これは 5 次以上の高次公式誘導の際、普通つけ加えられている付加条件をつけずに導いたもので、従来導かれたものすべてを含む一般的なものである。その結果 x の最後の分点が積分の刻みの端の点に一致する場合には、自由なパラメタを二つ含む唯一種類に限ることが証明される。以前導いた極限公式はこの二つの自由なパラメタがある関係式をみたす特別な場合にあたる。ここで導く公式は、自由なパラメタには何の制限もない、そこでこの二つを 7 次の誤差項の最小化に用いれば打ち切り誤差に関して最良の公式となる。次に、導関数計算を必要としない 6 回の関数計算だけの 6 段公式で、この 6 次の極限公式と数値的に同程度の精度をもつ公式を示す。これは打ち切り誤差最小の極限公式に基づいているので、打ち切り誤差に関しても 6 段で達成できる最も精度の良いものであり、計算の手間の面で効率の良い実用的な公式である。

■ 連立 1 次方程式における数値解の誤差評価

布広 永示 (日立製作所)

平野 菅保 (日本大学)

浮動小数点演算を用いて連立 1 次方程式を解いて得た数値解の誤差評価を考える。電子計算機を用いて数値計算を行う場合、連立 1 次方程式の係数、定数項は、数値を有限桁の数値に丸めたことによる誤差を含む。このため、計算途中で起こる丸め誤差が入るのを防ぐために高精度演算を用いて数値解を求めたとしても、数値解は、係数、定数項が含む誤差に起因する誤差を含む。ここで、係数、定数項が含む誤差はそれぞれすべて独立しているとは限らず、同じ原因で発生し、恒等的に等しい誤差を含んでいる場合がある。したがって、独立な誤差を用いて、係数、定数項が含む誤差を表すことができる。本論文では、数値解の誤差を評価する方法として、係数、定数項が含む誤差を独立な誤差に分け、数値解の各要素ごとに誤差を評価する新しい誤差評価方法を提案した。そして、幾つかの応用例に本論文で提案した数値解の誤差評価方法を適用することによって、この誤差評価方法の有効性を示した。

■ ユニバーサル・ホスト計算機 QA-2 の 高機能順序制御方式

柴山 潔 (京都大学)
北村 俊明 (富士通)
中田登志之 (日本電気)
富田 眞治 (京都大学)
萩原 宏 (")

QA-2 は、低レベル並列処理機能をマイクロプログラム方式で制御するというシステム構成方式により、高速性と柔軟性を兼備したユニバーサル・ホスト計算機である。QA-2 のマイクロ・アーキテクチャは、処理速度、システムの柔軟性、およびマイクロプログラムの生産性の向上を図るために、高機能かつ一様な並列演算機構、メモリ・アクセス機構および順序制御機構を採用し、図形・画像・信号データのリアルタイム処理や高級言語処理などの多様な応用に対して、柔軟に適応可能となっている。特に、QA-2 の低レベル並列処理機構の高速性を生かし、しかもユニバーサル・ホスト計算機としての広範な問題適応能力を得るために、ハードウェア機構としてさまざまな工夫を施した高機能順序制御方式を開発した。本論文では、QA-2 の順序制御部 (SCU) のハードウェア構成について詳述し、その方式について簡単に評価を加える。

■ マルチコンピュータ・マルチスクリーン・ グラフィクスワークステーションの開発

荻野 博幸 (京都大学)
平石 裕実 (")
津森 靖 (")
矢島 脩三 (")

コンピュータ・グラフィクスは計算機援用設計 (CAD)、シミュレーション結果の表示、三次元 CAD による立体表示や教育 (CAI) 等の分野で幅広く利用されている。これらのグラフィクス表示を高品位の画質で高精度に行うためには、グラフィクス表示装置の解像度を上げることが切望されている。しかしながら、従来から用いられてきたグラフィクス・システムでは、表示装置の物理的解像度の制限のために一度に大規模な図形を表示することや、同時に多くのウィンドウを表示することが不可能であった。本論文ではこれらの状況を打開する一つの方法として1台の表示装置で物理的に表示可能な限界を超えた超高解像度の表示を実現するために、マイクロコンピュータで制御さ

れるグラフィクス表示装置を複数台用いて、2次元的に配置するマルチコンピュータ・マルチスクリーン・グラフィクス表示方式 (MCMS 表示方式) を提案する。そして、MCMS 表示方式に基づき、2×2 スクリーンとコントローラ1台の構成で実現した MCMS システムについて報告する。本方式により、柔軟性と拡張性を持ったシステムが構築でき、また、複数のスクリーンにより解像度を向上させても全スクリーンに対する描画時間は一つのスクリーンに要する時間で行えるため、効率よく並列描画できることが明らかになった。

■ タイム・シェア処理における多重度の効果

山崎 源治 (都立科学技術大学)
逆瀬川浩孝 (筑波大学)

ジョブのシステムへの到着過程が Poisson 過程である Limited Processor Sharing System (LiPS システム) を考える。この LiPS システムはタイム・シェア処理システムの一一般化であり、その特別な場合として、待ち行列ネットワークでの Processor Sharing 規律、通常の有限多重度のタイム・シェア処理方式などを含んでいる。本稿では、この LiPS システムの平均系内ジョブ数の近似式・不等式を導く。この不等式は、ジョブのサービス要求量の変動係数 (C_i) が1より小さいときは、多重度を増すことはシステム効率を減少させること、 $C_i > 1$ のときはその逆となること、を示唆している。さらに、得られた近似解と厳密解の比較から、その精度が非常によいことが明らかになる。上述の不等式・近似式は、共に点過程の理論から導かれる。すなわち、最初に点過程の保存則を基に、一種の '平衡式' を導き、それから平均系内ジョブ数の厳密解を求める。この解は、ある未知量を含んでいるが、この未知量に対して適当な評価及び適当な仮定を設けることにより、不等式・近似式が導かれる。それゆえ、得られた近似式はその簡便性と合わせて、どこまで厳密解で、どこをどのように近似しているかが明確である、という特長を持っている。

■ 計算機システムのジョブ処理効率測定モニター (JPTM) について

末永 正 (九州大学)
景川 耕宇 (")
武富 敬 (")

近年、計算機システムが複雑化するにつれ、その処

理能力を正確に評価・分析する技術はシステムを運用するうえで非常に重要である。性能評価基準の二大要素であるスループットとレスポンスタイムに関して、これまでのいろいろな評価システムが開発されてきたが、そのほとんどがサンプリングによる状態調査によって行われており、測定時のシステム負荷の変化といった未解決の問題も多く残されている。とりわけ、スループットの評価・分析に関しては、仮想計算機システムのような複雑なシステム構成に対応できていない。ここでは、スループット評価時の基礎となる CPU の処理効率について、サンプリングによる CPU 利用率の算出ではなく、OS が管理しているジョブの CPU 使用時間を直接計測する方法によって、測定オーバーヘッドがなく、OS 走行を含まないジョブだけの CPU 利用率を評価できる測定システムを実現した。これによって、チューニング効果を正確かつ即時的に把握することができ、しかも、仮想計算機 (VM) 環境と実計算機環境の比較といった従来のソフトウェアモニタでは行えなかった評価も特別なハードウェア測定装置を用いずに可能になる。

■ 一リング形 LAN のシミュレーションによる解析

中村 奉夫 (筑波大学)
海老原義彦 (")
池田 克夫 (")

スロット方式によるリング形ローカルエリアネットワーク (LAN) の性能を、シミュレーションによって解析した。既存の計算機システムにおいて TSS 環境下で実験中に、メッセージ・トラフィックの測定を行い、その測定結果を参考にしたシミュレーションにより、スロット方式リング形 LAN の基本性能について解析した。次に、この LAN でのマルチチャネルアクセス方式 (複数個のスロットを束ねて一括して使用する方式) において、バースト性の大容量データ転送が他のメッセージ転送に与える性能上の影響を、メッセージ転送に利用可能なスロット数を制限する形のシミュレーションにより調べた。

■ 多重リング・ネットワークとその性能について

橋本 浩一 (東 芝)
大前 義次 (茨城大学)

近年、分散設置された多数のコンピュータ、端末、

各種オフィス機器等を相互に接続するローカル・エリア・ネットワーク (LAN) が重要となっている。LAN のリング型アクセス制御方式として、従来、単一リングによるトークン・パッシング方式が用いられている。しかし、高速伝送をはかると伝送遅延によるオーバ・ヘッドが大きくなり、システム効率が低下する。この観点から、リングを多数並列に配置した多重リングによるトークン・パッシング方式を提案する。本研究では、単一リングの平均伝送時間を仕事量保存則を用いて求め、それを構成する期待時間の加法性の成立から多重リングの平均伝送時間算定のための理論式を導いた。理論値とシミュレーション値との比較を行い、システム効率から見て、単一リングの高速化をはかるより、リング数を増して多重リングにした方がはるかに優れていることを明らかにした。

■ Pascal プログラムに対する呼出数最小のモジュール宣言方法について

阿部 寅吉 (山梨大学)
有澤 誠 (")

大きなプログラムを作成するときに、幾つかのモジュールに分割して設計する方式は、構造化されたソフトウェアの基本である。この分割の後、構造化の進んだ言語では、モジュール宣言の階層構造を決定しなければならない。この階層構造は、モジュール間の呼出関係に依存する。本論文の目的は、モジュール結合度の考え方にに基づき、Pascal を対象言語として、モジュールの呼出関係から望ましい階層構造を決定することである。Pascal のモジュールは、プログラム本体、手続き、関数のいずれかであると考えられる。このとき階層構造に対してひとつの評価値を定め、この値から望ましさを判断する。階層構造を決定する方法は、Pascal の特徴から forward 指定を必要としない場合と、必要とする場合とに分かれる。前者では、望ましい階層構造を求める方法を示す。しかし後者では、forward 指定に関する望ましさの判定が困難なため、単に階層構造を求める方法を示す。またこれらの過程から、forward 指定を必要とする条件や、特別な呼出関係に対する階層構造の性質などについても示す。

■ 木構造化チャートによるプログラム開発・保守技法

大原 茂之 (東海大学)

これまでのプログラム文書化技法の多くは、どちら

かといえばプログラム開発に焦点を合わせてきた。これに比べプログラムの保守性をいかに高めるかという問題についての議論は十分になされていなかったように思われる。プログラム開発はトップダウン的な側面が強く、プログラム保守は作成済みのプログラムから仕様に近づくボトムアップ的な側面が強い。本論文ではプログラムの開発と保守をトップダウンとボトムアップ併用によるプログラミングとして位置づけ、これを統一的に扱える記述法について述べる。この記述法 (TS チャートと呼ぶ) では、プログラムの保守を重視した寄生構造という概念を導入した。寄生構造を利用することでプログラムを制御部、被制御部、メイン処理、準備的な処理、後始末的な処理といったレベルまで構造化できること、さらに作成済みプログラムの処理、モジュール、制御構造等の修正を容易にできることを示す。

■ JIS 校正記号準拠のオンライン手書編集方式

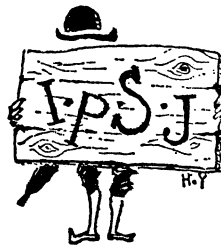
葛貫壮四郎 (日立製作所)

横山 孝典 (")

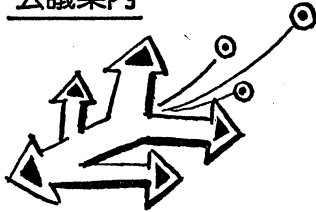
正嶋 博 (")

福永 泰 (")

人間の考えているイメージを計算機に直接入力するオンライン手書入力方式が最近注目されている。しかし、従来の紙と鉛筆によるオフィス作業の一部 (文字入力) のみしかまだ実用化されていない。この手書き入力方式をさらに発展させるには、文字・図形の手書入力はもとより、編集作業をも手書きで行えることが重要となる。そこで、本論文では、手書校正記号による新しい編集方式を紹介する。手書校正記号は、JIS校正記号を基本に、図形にも統一的に扱えるよう工夫した。この手書校正記号は、基本的には、処理内容を示すプリミティブシンボル、処理の方向を示す接続シンボル、さらに処理対象を示すグループシンボルと称す構成要素で構成される。校正記号の多様な形状変化や入力ストロークの手順変化を吸収するため、(1)ストローク単位の認識で構成要素候補を抽出し、(2)次に必要な構成要素数が満足しているかどうか判定し、(3)最後に構成要素間の構造上の知識を用いて判定する構造総合判定方式により、認識する。本方式を、入力と表示機能を一体化した平面ディスプレイ装備のシステム上に実現し、初心者で94%、熟練者で100%の認識率を得た。



会議案内



各会議末のコードは、整理番号です（*印は既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手70円を同封のうえ、請求ください。（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

国際会議

Avignon '87—7th Int'l. Workshop on Expert Systems and their Applications (054)

1. May 13-15, 1987
2. Avignon, France
3. 〈論文提出先〉 Workshop Chairman: Jean-Claud Rault, Agence de l'Informatique, Tour Fiat Cedex 16, 92084 Paris-La Défense, France
4. 論文締切り: December 15, 1986, A 4判 20 ページ以内, コピー 5部提出

IFIP Workshop on CAD Engines (055)

1. 1987年6月8日(月)~9日(火)
2. 機械振興会館 (東京都港区)
3. (主催) IFIP WG 10. 5, 情報処理学会 (問合せ先) 早稲田大学工学部電子通信工学教室 大附辰夫 Tel. 03 (209) 3211 (内 3422)
4. 中心テーマ: VLSI 設計用 CAD エンジン

13th IFIP Conf. on System Modelling and Optimization (056)

1. 1987年8月31日(月)~9月4日(金)
2. 中央大学春日校舎 (東京都文京区春日 1-13-27)
3. (株)日本科学技術研修所 矢島敬二
4. アブストラクト締切り: 1986年12月31日 英文, タイプ打ち, タブスペースで 2~4 ページ, 原本およびコピー 2部を 3. の連絡先に送付のこと。なお, 詳細は本号みどりのページ参照。

ASPLOS-II—2nd Int'l Conf. on Architectural Support for Programming Languages and Operating Systems (057)

1. October 5~8, 1987
2. Palo Alto, California
3. (国内連絡先) 慶大・理工 所真理雄 Tel. 044 (63) 1141 (内 3316)

4. 論文応募は、フルペーパー(約5,000語)またはショートペーパー(約1,000語)のコピー5部を1987年2月1日必着で Randy H. Katz, Computer Science Division, U. C. Berkeley, Evans Hall, Berkeley, CA 94720 へ送付, 採否通知は5月15日。

IMACS/IFAC-DPS '87-Hiroshima—IMACS/IFAC 分布定数系のモデル化とシミュレーション国際シンポジウム (058)

1. 1987年10月6日(火)~9日(金)
2. 広島工業大学 広島校舎 (広島平和公園より南へ200m, 広島市中区中島町5-7)
3. (主催) IMACS (連絡先) 広島工業大学土木工学科 二神種弘 Tel. 0829 (21) 3121 (内 406)
4. 論文締切り: 1986年12月1日 (300語以内のアブストラクトを提出のこと)。

国内会議

日本工業会記念講演会「わが国工学の将来と使命」——工学における安全性——

1. 昭和61年11月14日(金) 13:00~16:00
2. 工学院大学講堂 (東京都新宿区西新宿 1-24-2)
3. 日本工学会 Tel. 03 (475) 4621
4. 入場無料

セミナー「計測のインテリジェント化」

1. 昭和61年11月25日(火)~26日(水)
2. (株)安川電機製作所研修センター (北九州市八幡西区岡田町 7-29)
3. 日本自動制御協会 Tel. 075 (751) 6413
4. 参加費: 会員 25,000 円, 学生 12,000 円 非会員 35,000 円

第9回 工業教育研究講演会

1. 昭和61年12月6日(土) 9:30~17:10
2. 東京工業大学工学部 413 講義室 (東京都目黒区大岡山 2-12-2)
3. (社)日本工業教育協会 Tel. 03 (571) 1720
4. 講演会参加費: 4,000 円 懇親会: 18:00~ 会費 3,000 円

昭和61年度セミナー「計算幾何学とその応用技術」

1. 昭和62年1月19日(月)~20日(火)
2. 日本アイビーエム(株)サイエンス・インスティテュート (東京都千代田区三番町 5-19 第36興和ビル)
3. 日本オペレーションズリサーチ学会 Tel. 03 (815) 3351~2
4. 参加費: 会員 30,000 円, 学生 10,000 円

第4回「センシングフォーラム」

1. 昭和62年4月7日(火)~8日(水)
2. 学士会館本館 (東京都千代田区神田錦町 3-28)
3. (社)計測自動制御学会 Tel. 03 (814) 4121
4. 講演申込締切: 昭和61年11月22日(土) 原稿締切: 昭和62年3月1日(日)

第 17 回「信頼性・保水性シンポジウム」

- 1. 昭和 62 年 6 月 2 日(火)～4 日(木)
- 2. 農協ビル, 日経ホール (東京・大手町)
- 3. (財)日本科学技術連盟・第 2 事業部
Tel. 03 (352) 2231 (内 524)

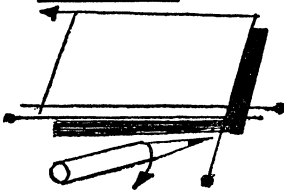
「経営情報」に関するシンポジウム

- 1. 昭和 61 年 11 月 8 日(土) 13:00～17:00
- 2. 大阪市立大学文化交流センター (大阪市北区梅田 1-1-3-1700)
- 3. (主催) 日本学術会議経営情報研究連絡委員会
(問合せ先) 日本学術会議事務局 Tel. 03 (403) 6291
- 4. テーマ: ①システム監査と経営情報, ②フランスの経営情報問題, ③経営情報・情報処理教育の問題点, ④会計情報の基本問題

第 5 回 技術発表会 (IPA 技術センター)

- 1. 昭和 61 年 11 月 11 日 (火) 9:30～18:00
- 2. 東京農林年金会館: 鳳凰の間, 葵の間
- 3. 情報処理振興事業協会 (IPA) 技術センター
Tel. 03 (437) 2301
- 4. 発表テーマ: セキュリティ関連技術, ソフト開発におけるヒューマンインタフェース, 設計者用ワークステーション技術, 計算機理解のための日本語辞書, ソフトウェア品質評価モデル
特別講演: 医療診断用エキスパートシステムの実用化をめぐる
パネル討論: ソフト開発と AI 技術
参加費: 4,000 円 (見込み)

雑 報



○静岡大学工学部電子工学科教官募集

募集人員 教授 1名
 専門分野 通信方式および情報通信ネットワークシステムの分野において, 主に実験的な研究と, それに関連する専門科目および電子工学基礎科目の教育に熱意があり, 研究業績のある方。
 応募資格 学位を有し, 年齢 55 歳以上が望ましい。

着任時期 昭和 62 年 4 月 1 日
 募集締切 昭和 61 年 11 月 25 日 (火) 必着
 問合せ先 静岡大学工学部電子工学科教室主任 今井哲二
 Tel. 0534 (71) 1171 (内線 350)

○JIS に情報部門(部門記号「X」)を新設

これまで情報関係の規格については, C 部門 (電気) に加えて B 部門 (機械: FA, OA 関係を含む) 等において制定されてきたが, 情報技術分野の標準化の進展にともない, その規格の体系的整備を図るため, このたび JIS に新しく X 部門 (情報) を設けることが日本工業標準調査会 (JISC) の標準会議で決った。

X 部門の分類の対象範囲としては, ISO, IEC 等が取扱っている情報技術分野に概ね対応した範囲とするが, 具体的には情報処理機器, 情報関連機器に関する規格およびこれらと密接に結び付いた規格を対象とする。

なお, X 部門の中での分類分けおよび現在制定されている規格の X 部門への移行は, 今後検討のうえ可及的速やかに行うこととしている。

著者紹介



上野 滋 (正会員)

大正 11 年生. 昭和 20 年東京大学工学部卒業. 昭和 23 年より 55 年まで総理府統計局, 厚生省厚生年金業務室, 労働省職業安定局労働市場センター業務室等に勤務. その間, 厚生年金システムや雇用保険システムなどの大型システムの構築に従事。

昭和 55 年より (株)総合ソフトウェア研究所所長, 現在に至る. 著書「データ通信システム入門」など。

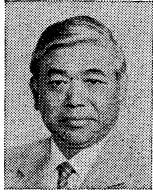


高石 義一

日本アイ・ビー・エム (株) 常務取締役・ゼネラルカウンセラー. 昭和 30 年 3 月日本大学法学部卒業. 昭和 32 年 4 月弁護士登録. 昭和 41 年 6 月コロンビア大学ロー・スクール大学院より比較法学修士. (Master of Comparative Law, MCL). 昭和 43 年 2 月ニューヨーク大学ロー・スクール大学院より国際法学修士. (LLM in International Law).

※外部委員等

- 法とコンピュータ学会常任理事
- 経団連経済法規委員会
- 財団法人比較法研究センター評議委員など



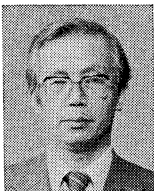
寺田 浩詔 (正会員)

昭和8年生。昭和31年愛媛大学工学部電気工学科卒業。昭和33年大阪大学大学院通信工学科専攻修士課程。昭和36年同博士課程修了。同年3月同大学助手となる。昭和39年電子交換機における制御と記憶に関する研究により工学博士。昭和40年講師。昭和41年助教授を経て。昭和51年大阪大学教授となる。現在。同大学工学部電子工学科において。交換機等の実時間高度並列処理向き超高位言語。VLSI 向きデータ駆動形アーキテクチャ。PLA の設計手法等の研究に従事している。電子通信学会。電気学会。テレビジョン学会。自動制御協会各会員。



中山 剛 (正会員)

昭和8年生。昭和32年早稲田大学文学部哲学科心理学専修卒業。昭和38年同大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程修了。工学博士。昭和38年日立製作所入社。中央研究所勤務。現在第8部主任研究員。音質評価。画質評価。音声品質の評価などの研究を経て。現在。日本文入力方式の人間工学的研究。ヒューマン・コンピュータインタラクションの研究に従事。日本音響学会佐藤論文賞。テレビジョン学会技術振興賞著述賞受賞。電子通信学会。日本音響学会。テレビジョン学会。日本心理学会。米国人間工学会などの会員。



西之園晴夫

1935年生。1959年京都大学工学部電子工学科卒業。1961年京都大学教育学部卒業。1963年京都大学工業教員養成所電気工学科助手。助教授を経て1968年京都教育大学技術職業科助教授。同大学教育工学センター教授を経て。現在同大学教育実践研究指導センター教授。専門は教育工学。教師教育であり。特にコンピュータの教育への応用研究。国立大学教育工学センター協議会会長。日本教育工学会副会長。日本教育工学協会副会長。ユネスコ国内委員会委員。



中井 浩 (正会員)

1927年生。1951年名古屋大学理学部物理学科卒業。素粒子論の研究に従事。1957年より1985年まで日本科学技術情報センターにおいて経営に参画する傍ら。データベース。自然言語処理系統の研究開発を指導。現在は常磐大学人間科学部コミュニケーション学科(教授)を中心に。東京大学。慶應義塾大学でデータベース。情報科学の講義を行う。データベース。自然言語処理。知能的システム等を専攻。計量国語学会。情報通信学会などの会員。著書は「論理と情報の世界」。「コミュニケーションの構造」ほか数冊。最近は画像処理や音声処理(そのデータベース化を中心として)にも興味を持っている。



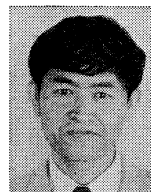
井深 隆雄

昭和14年生。昭和39年早稲田大学第1法学部卒業。同年日本経済新聞社入社。東京本社編集局社会部を振り出しに同婦人家庭部。工業部。名古屋報道部。東京本社整理部の各部記者。昭和51年函館支局長。56年八王子支局長。59年データバンク局生活情報部研究委員。60年9月より財団法人データベース振興センターへ出向。現在。同財団企画部部長。



坂内 正夫 (正会員)

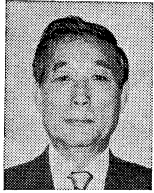
昭和44年東京大学工学部電気工学科卒業。昭和50年同大学院博士課程修了。同年東京大学工学部電気工学科専任講師。昭和51年横浜国立大学工学部情報工学科助教授。昭和53年東京大学生産技術研究所助教授。現在に至る。画像データベース。図形処理。図面処理。地図データベース。信頼性などの研究に従事。工学博士。



青木 由直 (正会員)

昭和16年生。昭和39年北海道大学電子工学科卒業。昭和41年同大学院修士課程修了。同年同大学講師。昭和42年同大学助教授。昭和54年同大学電気工学科教授。中国瀋陽工業大学。黒龍江大学客員教授。(財)札幌エレクトロニクスセンター

運営委員会委員長。不可視波動情報処理，信号処理，マイクロコンピュータ応用の研究に従事。「不可視情報の画像化」(分担，昭見堂，昭和56年)，「マイクロコンピュータ講義」(共著，昭見堂，昭和58年)，「BASIC 数値計算法」(コロナ社，昭和59年)，「波動信号処理」(森北出版，昭和61年)。電子通信学会，IEEE，OSA，応用物理学会，日本音響学会など各会員。



道下 忠行 (正会員)

1926年生。1953年中央大学法学部卒業。行政管理庁(現総務庁)，東京芝浦電気(株)を経て，1966年東海大学工学部教授(経営工学科)。

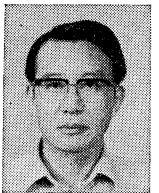
現在，教育工学研究所長，就職部長を兼任。この間，行政情報システム，事務管理，オフィス・オートメーションについての研究に従事。「行政管理とコンピュータ」日本経営出版会(共訳)，「入門電子計算機」東海大学出版会，「経営工学概論」建帛社(共著)。日本経営工学会，日本開発工学会，科学技術と経済の各会員。



河合 輝欣 (正会員)

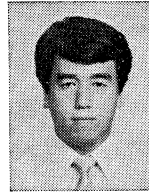
昭和16年生。昭和39年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業。昭和41年同大学院工学研究科修士課程修了。同年日本電信電話公社入社。

現在，データ通信事業本部公共システム事業部第三システム統括部長。病院情報，救急医療情報，健康管理情報等の医療情報システム及び官公庁のデータ通信システムの開発に従事。



木村 幸男 (正会員)

昭和13年12月生。昭和38年東京大学工学部応用物理学科卒業。同年国鉄入社。鉄道技術研究所において，コンピュータ・グラフィックスの応用，音声応答装置の利用研究に従事。電話による座席予約システムの開発，COMTRACシステムの開発に参加。のち，乗務員運用計画旅客情報案内システムの研究を行う。現在，省エネルギー列車運転方法，電子切符などの研究開発に従事。コンピュータ・ネットワーク技術ユニット・リーダー。計測自動制御学会，電気学会，人工知能学会，日仏工業技術会各会員。



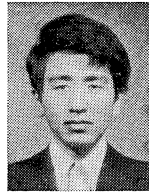
後藤 浩一 (正会員)

昭和30年生。昭和53年京都大学工学部情報工学科卒業。昭和55年同大学院修士課程修了。同年国鉄入社。昭和58年より鉄道技術研究所情報システム研究室に勤務。各種鉄道用情報システムの開発・保守の効率化，通信ネットワーク応用システム等の研究開発に従事。電子通信学会，日本ソフトウェア科学会，人工知能学会各会員。



池田 宏 (正会員)

昭和20年生。昭和44年早稲田大学理工学部電気通信科卒業。昭和46年同大学院修士課程修了。同年国鉄入社。新幹線の列車群管理，シミュレーション技術の応用，知識工学の応用等の研究およびCOMTRACシステムの開発に従事。計測自動制御学会会員。



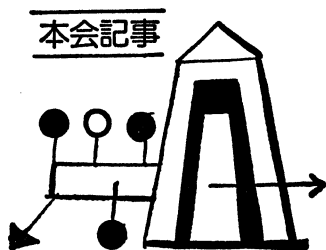
馬場 厚 (正会員)

昭和31年生。昭和58年慶應義塾大学大学院工学研究科計測工学専攻修士課程修了。同年気象庁入庁。数値予報解析システムのプログラム開発と保守作業，および客観解析の研究に従事。気象学会会員。



横田 崇

1955年生。1982年東京大学大学院理学系研究科地球物理学専門課程博士課程修了。理学博士。同年気象研究所研究官。1984年気象庁地震予知情報課併任。現在，津波予報の迅速化と東海地震に係る常時監視の強化を目指して気象庁本庁に設置される「地震活動等総合監視システム」の開発・整備に従事。日本地震学会，日本火山学会各会員。



本会記事

第301回理事会

日時 昭和61年7月17日(木) 17:30~19:00
 会場 情報処理学会会議室(保科ビル2階)
 出席者 尾関会長, 松尾, 浦各副会長, 新井, 木村
 小林, 島崎, 関, 中田, 堀越, 山田, 石田
 植村, 片山, 高根, 名内, 福井, 藤枝各理事
 関口, 池野各監事
 河口北海道支部長
 (事務局) 坂元事務局長, 桜間次長

議事

1. 総務関係(島崎, 小林, 福井各理事)

1.1 昭和61年6月期の会議開催状況

理事会, 編集委員会他	17(回)	} 95(回)
研究会関係	14	
規格委員会関係	64	

1.2 会員状況報告

昭和61年7月16日(現在)の会員現況

正会員	23,130(名)	} 23,744(名)
学生会員	613	
海外会員	1	
賛助会員	342(社) (459口)	
購読員	105(件) (115口)	

1.3 昭和61年5月期の会計収支報告。

1.4 文部省主催の「学術情報データベース形成に関する懇談会」が6月24日に開かれ, 第2次学術情報としての加工につき, 必要により要請があるとのことであった。

1.5 飯塚浩司(国鉄中央情報システム管理センター次長)採用を承認した。

2. 機関誌関係

2.1 学会誌編集委員会(関, 木村, 立花, 高根各理事)

去る7月11日(金)に第105回編集委員会を開き, 学会誌27巻9号~11号の編集, とくに9号「並列処理特集」の総ページが200ページをこえたので, 28巻1号と2分し, それぞれ小特集として発行する旨説明があり, 了承された。

2.2 論文誌編集委員会(堀越, 廣瀬各理事)

去る7月16日(水)開催の第98回論文誌編集委員

会で, 論文誌27巻10号の目次案を審議決定した。懸案のカラー写真の掲載については「1頁につき別刷代4頁分の負担をいただく」ことに決定した旨説明があり, 了承された。

2.3 欧文誌編集委員会(木村, 片山各理事)

去る7月11日(金)に第77回欧文誌編集委員会を開き, 論文査読が6カ月以上滞っている場合の処置につき審議し, あわせて, JIP掲載論文の和文アブストラクト(刷上り1頁)を和文論文誌に掲載する件が論文誌編集委員会の了承を得られた旨の説明があり, 承認された。

3. 事業関係(中田, 石田, 藤枝各理事)

3.1 第32回全国大会(61年3月, 学習院大学)学術奨励賞について去る7月4日に学術奨励賞委員会(委員長松尾副会長)を開き, 第2次投票(6月20日締切り)の結果と専門分野を考慮のうえ, 下記12名を決定した旨説明があり, 承認された。

斎藤真人(日立), 小島啓二(日立), 藤田敏昭(NTT) 高嶋孝明(日本IBM), 井佐原均(電総研), 桑原和宏(NTT), 松田秀雄(神戸大), 関根義人(筑波大) 平山智恵子(日本IBM), 石浦菜岐佐(京大), 村上公一(富士通研), 平林扶佐子(日電)

3.2 第35回全国大会(62年後期)の北海道大学の開催を北海道支部で検討中である旨, 河口支部長から説明があった。

4. 調査研究関係(新井, 植村各理事)

4.1 規格委員会

前回理事会で指摘された情報規格調査会規程(案)に対する見直しを行った結果につき説明があった。本調査会は定款第5条5項の事業に関して設けられた定款第28条に規定する委員会とすること及び規格賛助会費は定款第43条3項に関する収入とすることを確認のうえ, 本規程を承認した。

4.2 シンポジウム, 講習会等の終了報告および開催願いを承認した。

- (1) 「プロトタイピングと要求定義」シンポジウム(61年4月16, 17日, 参加者156名)終了報告
- (2) 1987情報学シンポジウム(62年1月13, 14日, 参加者予定115名)開催願い
- (3) 「ソフトウェア工学の現状と動向」講習会(61年12月11, 12日, 参加者予定140名)開催願い。

5. 国際関係(山田, 名内各理事)

5.1 国際委員会規程(案)を, 前々回理事会で指摘された事項を検討のうえ, 再提出した旨説明があり, 次の事項を確認のうえ, 了承した。

- ① IFIP 日本代表の任命。
- ② 委員の任期は原則として3年とする。
- ③ 国際会議へのIPSJのかかわり方と調整。
- ④ 国際会議の周知に努め, 会員が参加し易くする。

⑤ 規程第14条の財政の項は、独立会計ではないが、国際活動の資金援助の方策をはかる。

5.2 COMPSAC '87 について

「Computer Software & Applications Conference 1987 を来年10月5～9日に高輪プリンスで、IEEE Computer Society と共催して欲しい」旨をAFIPSのYau会長から、尾関会長に直接に依頼があった。時間的余裕がないので、9月理事会に同国際会議を開くための組織、予算等の提案をうることとした。

6. 次回予定 9月18日(木) 17:30～

機関誌編集委員会

○第106回 学会誌編集委員会

8月8日(金) 18:00～20:30 に機械振興会館6階67号室で開いた。

- (出席者) 関委員長, 木村, 立花各副委員長
(FWG) 後藤, 天野, 有沢, 片桐, 木村, 原田, 守屋, 渡辺各委員
(SWG) 角田, 石畑, 国立各委員
(HWG) 島田, 前田, 大森, 小栗, 竹田各委員
(AWG) 溝口, 伊藤, 香取, 絹川, 田畑, 塚本, 中島, 中村, 矢部各委員

議 事

1. 木村, 立花両編集担当理事のあいさつがあり, ついで, 7月理事会で「欧文誌掲載論文の和文アブストラクト1ページ(図入り可)を和文論文誌にのせること」が承認された旨報告があった。
2. 学会誌目次(案)により, 27巻9号～12号の発行準備状況を確認した。
3. 各WGからの「解説・講座等管理表」による報告。
4. 来年の28巻10号(大特集)へ名乗りをあげて欲しい。
5. 次回予定 9月12日(金) 17:30～

○第107回 学会誌編集委員会

9月12日(金) 17:30 から機械振興会館6階67号室で開いた。

- (出席者) 関委員長, 立花副委員長
(FWG) 後藤(滋), 天野, 木村(文), 原田, 福永各委員
(SWG) 角田, 石畑, 居原田, 小川, 清木, 久野, 中村(史), 藤林各委員
(HWG) 島田, 前田, 小栗, 小池, 相馬各委員
(AWG) 保原, 後藤(浩), 田畑, 八田, 山村各委員

議 事

1. 発行準備状況の確認(27巻10号～12号, 28巻1号)

2. 各WGからの報告

- (1) FWG 小特集号案として「スーパーコンピュータと大型行列計算アルゴリズム」「三次元CADソフトウェアの動向」が提案され了承された。
- (2) SWG 28巻6号特集号「マルチメディアデータベース」が了承され, 目次依頼。
- (3) AWG 28巻4号「分散処理技術」前回未提出分目次案の了承。小特集号案「電子メールとグループ通信」は次回にひきつづき審議される。

3. 次回予定 10月9日(木) 17:30～

○第99回 論文誌編集委員会

8月27日(水) 17:30～19:30 に情報処理学会第1会議室で開かれた。

(出席者) 堀越委員長, 原田, 村井, 村岡各委員

議 事

1. 新投稿23件, 採録16件, 不採録1件
2. 27巻10号の目次は, 今月採録の5論文を加えることにした。
3. 投稿論文の処置
 - (1) 採録判定論文16件の採録を確認のうえ決定した。
 - (2) 不採録判定論文の査読結果を検討した。
 - (3) 問題論文5件について担当委員の処置案, 及び査読報告により検討した。
4. 査読者宛督促論文については, 事務局より担当委員を通じ督促することにした。
5. 第34回全国大会論文募集要領(学会誌27巻9号掲載予定)を確認した。
6. 論文誌の購読者の倍増案を次回に検討することとした。
7. 次回予定 9月10日(水) 17:00～

○第100回 論文誌編集委員会

9月10日(水) 17:00～20:00 に機械振興会館6階(パークヒル)で開いた。

(出席者) 堀越委員長, 廣瀬副委員長, 小川, 川戸, 原田, 村井, 村岡各委員

議 事

1. 新投稿8件, 採録12件, 不採録2件
2. 9月分採録原稿は27巻12号とし, 目次構成した。
3. 投稿論文の処置
 - (1) 採録判定論文12件の採録を決定した。
 - (2) 不採録判定論文2件につき査読結果を確認した。
4. 28巻1号について
年末年始に28巻1号, 2号の編集作業の集中をさけるため, 1号については10月中旬に目次構成ができるよう, 査読促進を期すこととした。
5. 特集号について
継続審議中の特集号発行につき, 具体案を審議検討

した。

6. 27 卷 11 号に掲載予定の著者より、標題の変更願いがあり了承した。

7. 次回以降予定 10 月 8 日(水), 11 月 12 日(水), 12 月 10 日(水) (以下略)。

○第 78 回 欧文誌編集委員会

8 月 20 日(水) 17:30~21:00 に機械振興会館 6 階(パークヒル)で開いた。

(出席者) 木村委員長, 片山副委員長, 福村前委員長, 雨宮, 田畑, 土居, 西垣, 藤村, 益田各委員

議 事

1. 管理表の審議

(1) 前回のトラブルシューティングの報告

返戻したもの(5 編), 照会したもの(4 編), **express run** に出したもの(3 編), 7 月の委員会までに査読報告あり照会中(1 編), 査読督促の結果著者照会に変ったもの(1 編), 督促中のもの(1 編)

(2) 今回審議した論文(9 編)

(備考)

現状のまとめ(処理方針の決まったものを除く)

査読待ち 17 件

照会后判定で照会中 8 件

照会后掲載で照会中 10 件

掲載まち原稿 1 件

2. 投稿規程の改訂について

1 ページの和文要旨を論文誌に掲載することになったので, この機会に投稿規程(和, 英)を改訂することにした。資料の原案を了承し, まとめを委員長にお願いすることとした。

3. 海外拡販策についてフリーティングをおこなった。

4. 「JIP 査読処理方式」について, たたき台に基づき審議の結果, とりあえず次のことを決めた。

(1) 第 3 査読者の扱いは今後和文論文誌の方式に合わせる。

(2) これまで JIP の場合, 査読者に単に論文を送付し諾否をたずねていなかったが, 今後は和文論文誌の方式に合わせる(はがきで諾否の返事をもらう)。これ以外の点については継続審議とした。

5. 興味のある論文を集めるための方策について, フリーティングをおこなった。出たアイデアは次のとおり。

(1) 和文論文誌の中から委員が面白いと思ったものをピックアップし, 招待論文として, 英訳掲載できないか, 次回片山副委員長から報告のうえ, 検討する。

(2) 外国のシンポジウムなどに出たものを, 著者に多小整理してもらって掲載してはどうか。

(3) 5 年とか 10 年とかたつた, よい論文を見なおして, それについて新しい招待論文を書いてもらうのはどうか。

(4) 別刷代をもう少し安くできると論文が集めやすいのではないか。

6. 次回予定 10 月 7 日(火) 17:30~

各種委員会(1986 年 8 月 21 日~9 月 20 日)

- 8 月 29 日(金) アドバンスト・データベースシンポジウム
VLDB ICOT ミーティング
COMPSAC '87 実行委員会
- 8 月 30 日(土) アドバンスト・データベースシンポジウム
- 9 月 9 日(火) 理事連絡会
- 9 月 10 日(水) 電気情報関連学会連合大会
ハンドブック改訂編集委員会
連合大会
- 9 月 11 日(木) 連合大会
- 9 月 12 日(金) 連合大会
オペレーティング・システム研究会・連絡会
電気情報関連学会役員会
- 9 月 16 日(火) コンピュータを用いた画像生成・表示の基礎技法講習会
設計自動化連絡会
記号処理研究会・連絡会
情報システム研究会・連絡会
- 9 月 17 日(水) 日本語文書処理研究会・連絡会
ソフトウェア工学連絡会
COMPSAC '87 実行委員会
- 9 月 18 日(木) 知識工学と人工知能研究会・連絡会
コンピュータビジョン研究会・連絡会
理事会
- 9 月 19 日(金) データベース・システム研究会・連絡会
自然言語処理研究会・連絡会
(規格関係委員会)
- 8 月 21 日(木) SC 18/WG 4, SC 21/WG 1, SC 21/WG 4, SC 21/WG 6
- 8 月 22 日(金) SC 18, SC 18/WG 3・5 合同,
SC 21 Ad hoc, SC 21/WG 3, SC 21/WG 5
- 8 月 25 日(月) ISO SC 6 東京会議連絡会
- 8 月 26 日(火) SC 6/WG 2, SC 6/WG 3, SC 23/SG 3, LAN JIS/WG 2
- 8 月 27 日(水) COBOL JIS/WG 1, LAN JIS/

- WG 4
- 8月 28日 (木) SC 6, SC 21, SC 21/WG 5 Ad hoc, SC 23/SG 2, SC 23/SG 5
- 8月 29日 (金) 規格委員会, SC 1, COBOL JIS/WG 2
- 9月 1日 (月) 情報処理用語 JIS
- 9月 2日 (火) SC 2, SC 23
- 9月 3日 (水) SC 6/WG 1, SC 6/WG 4 Ad hoc, COBOL
- 9月 4日 (木) プログラム構造 JIS
- 9月 5日 (金) SC 23
- 9月 8日 (月) SC 22/PL/I WG
- 9月 9日 (火) SC 6/WG 2, SC 11/MT WG
- 9月 10日 (水) SC 6/WG 4, COBOL JIS/WG 1, COBOL JIS/WG 3
- 9月 11日 (木) SC 1/WG 5
- 9月 12日 (金) SC 13
- 9月 16日 (火) ISO SC 6 東京会議連絡会, SC 6/WG 3
- 9月 17日 (水) SC 6/WG 1, SC 6/WG 4 Ad hoc. COBOL JIS/WG 1, LAN JIS/WG 2
- 9月 18日 (木) SC 6/WG 2, SC 7, SC 14, SC 15, SC 18/WG 5 Ad hoc, OS インタフェース, コンピュータシステムの図記号 JIS
- 9月 19日 (金) 規格総会, ISO SC 6 東京会議実行委員会, SC 2 Ad hoc, SC 6/WG 4

新 規 入 会 者

昭和 61 年 9 月の理事会で入会を承認された方々は次のとおりです (会員番号, 敬称略)。

【正会員】 青木康夫, 青野厚子, 青山順子, 安形敏博, 雨森尚樹, 飯野義博, 五十嵐久和, 井口克己, 石井義則, 石橋正好, 井関正信, 糸井正孝, 井戸伸彦, 井野敏夫, 今井則行, 印藤清志, 上田 仁, 上田芳弘, 内山喜久子, 大木由香里, 大下英蔵, 大津起夫, 大津裕司, 大塚 徹, 大槻朋子, 大橋典子, 岡征一郎, 岡崎收良, 岡野雅一, 岡本慎男, 小川時弘, 小川洋一, 小津裕朗, 小野修一郎, 小野寺伸之, 折方孝夫, 恩田憲一, 加我 仁, 柏木伸夫, 空閑茂起, 久野勝美, 栗原勝則, 幸得浩己, 小島正美, 小西むつき, 小林正明, 小宮康治, 斎藤幸弘, 酒井和彦, 坂本真一, 佐藤哲二, 佐藤 等, 寒川 光, 澤田 徹, 島田宏一, 清水俊彦, 下釜匡則, 白倉桂子, 白澤健一, 菅野博晴, 杉山 健, 杉山裕子, 鈴木良太, 関田修由, 外立貴宏, 曾根原登, 高井善章, 高谷康彦, 高橋達雄, 高橋洋一, 立和田斉, 千葉信吾, 茶園利昭, 長

亮二, 辻野 孝, 津田良一, 圓谷慶一, 富田正明, 仲 隆, 中川豊志, 中田典規, 中津隈良浩, 中西隆, 中野善之, 中村 誠, 長尾健司, 長峰信雄, 西川純一郎, 西川 学, 西野甲矢三, 西端芳彦, 西村玲子, 西本安弘, 根来正人, 野田和之, 野々山勉, 芳賀 仁, 橋本新一郎, 鳩野逸生, 羽生貴弘, 浜本真由美, 原 紀章, 樋口昌宏, 日隈元彦, 平井一人, 平井 均, 平野善郎, 平山修也, 広瀬信男, 福田真一郎, 藤井康博, 藤岡俊幸, 藤野清次, 藤本英雄, 松浦忠彦, 松田真一, 松野善夫, 満谷成彦, 水野源明, 水本好彦, 宮垣嘉也, 宮木茂雄, 宮崎久美子, 向井由美, 牟田征一, 村上 勤, 諸藤一雄, 八木沢薫, 柳田益造, 矢作裕紀, 山岡由佳, 山縣清壮, 山木正克, 山口浩史, 山田郁文, 山田邦夫, 山本 豊, 吉田万里子, 吉本 弘, 若林 宏, 渡壁忠夫, 和田 得, 野尻哲郎, 金井龍幸, 金谷義人, 樽井康典, 山口直樹, 芳尾淳一, 村田弘一, 仁平 亨, 吉村 淳, 浅香文雄, 柴田佳美, 高橋広正, 西出康一, 奥村浩司, 川上哲雄, 早川聡一, 山口和成, 松本茂之, 亀井宏治, 赤埴淳一, 浅田太一, 浅間幸夫, 阿部啓二, 飯富章博, 猪狩良夫, 和泉寿郎, 逸見研一, 伊東利哉, 伊東弘之, 伊藤義和, 井原朋美, 宇佐美祐人, 氏田博士, 円崎雄司, 王 康達, 大草茂夫, 大島龍博, 大塚昌之, 大坪伸二郎, 大西正紀, 折田 豊, 北村清之, 北村茂樹, 北村美宏, 北本幸一, 木全俊秀, 久保田茂隆, 阪倉昌宏, 桜井一郎, 四ノ宮明夫, 柴田祥彦, 島村忠義, 高田良宏, 田上真人, 田中まづる, 千葉大樹, 渡久地政恭, 戸塚玲子, 中筋良治, 永井 明, 沼田昌広, 樋口博之, 雛元孝夫, 福田 尚, 藤井修司, 藤本 彰, 前地真知, 前田広幸, 牧野 稔, 升田耕二, 松広一良, 見山友裕, 三輪謙吾, 村上憲也, 村上哲也, 村上幸男, 森 陽子, 山崎光悦, 湯浅 敬, 横地晃司, 吉田 博, 渡辺伸一, 和田 勉, 李 丙 洙, 木室義彦, 大山 裕, 大平竜夫, 成田明正, 染谷治志, 林 晋一, 本村哲朗, 加藤隆広, 柴山武彦, 杉野文晴, 谷元英輔, 樋口卓哉, 森 記之, 山田邦博, 山田博文, 末田直道, 篠原裕之, 田中利行, 山本亜津子, 近藤明博, 秋月大治, 安達 斉, 飯塚 均, 石垣秀孝, 江良倫夫, 小野 広, 我満智幸, 菊池一彦, 工藤孝生, 小室 敏, 斎藤裕峰, 櫻井 潤, 桜本英人, 白沢輝輝, 鈴木康弘, 槻山光枝, 中村光利, 佐々木宗悌, 樋地正浩, 平井 広, 福岡 均, 藤井勝浩, 藤木康広, 村上 仁, 秋生光行, 植木秀一, 遠藤順一, 菅野修一, 菊地英文, 小浜保則, 齋藤正行, 佐々木亨悌, 佐藤義人, 関 則雄, 豊岡雅人, 中山 健, 芳賀幸男, 茂田井紀昭, 有田慶憲, 淡路久明, 池内 実, 石崎伸明, 稲葉 進, 岩田晋一, 岩田善之, 大道芳孝, 大山博行, 岡本光曜, 長田靖宏, 雛井美知雄, 片上伸夫, 片田 太, 川口正仁, 喜田幸弘, 北垣 亨, 鬼頭 晃,

久留央夫, 神崎 昇, 小園博孝, 後藤則雄, 佐賀博行, 佐藤 勲, 杉野眞幸, 鈴木高吉, 高橋雅博, 田代和史, 橋 博雄, 田中孝夫, 玉置勝次, 辻 明弘, 中川隆司, 中川俊男, 中谷禧博, 中村知幸, 中本晃治, 中山義弘, 西畑邦夫, 西本永弘, 西山博喜, 長谷川祥三, 長谷川淳, 秦 俊夫, 蜂谷和久, 林 泰宏, 端山信幸, 原田啓輝, 平井 隆, 平崎雅文, 廣島清剛, 福井久人, 福岡正隆, 古川嘉男, 堀 治啓, 間島広海, 増穂 稔, 松崎昌英, 三田村康正, 宮崎晃郎, 陸田耕吾, 物部 寛, 森口直幸, 森本洋一, 諸木赫夫, 山下恒夫, 横 康之, 吉岡正人, 吉田好孝, 吉村有博, 加藤浩二, 紀室重夫, 鈴木祥平, 高田郁子, 田代章二, 中村徳光, 仁保信市, 本田泰也, 前田 真, 増井正則, 山口晶嗣, 渡辺章博. (以上 366 名)

【学生会員】 青木富雄, 朝倉隆文, 池田幸代, 磯野浩志, 宇佐美学, 江川宏一, 大隅 信, 大出哲也, 大橋和明, 荻野正樹, 加藤浩治, 喜多辰臣, 金 東 虎, 葛岡英明, 五島龍宏, 桜井 徹, 佐々木力, 佐藤優人, 佐野勝也, 周 清 准, 菅沼 明, 菅原武則, 竹田吉樹, 竹之内正一郎, 多田宏樹, 辻本敬一, 原 陽一, 馬木戸美朱留, 堀江一宏, 榎本英治, 松浦 宏, 三浦嘉章, 村上洋一, 村田典幸, 石津優司, 海老根淳志, 荒巻 正, 伊藤昌文, 柏田茂之, 古林秀和, 佐々木崇郎, 村木幸治, 菅沼 毅, 滝川耕一, 田村兵衛, 浜 安浩, PAVLOVIC・DURO, BERNADY・APDUHAN, 本田康晃, 三上貞芳, 結縁祥治, 吉岡志郎, 渡部卓雄. (以上 53 名)

採 録 原 稿

情報処理学会論文誌

昭和61年9月の論文誌編集委員会で採録された論文は次のとおりです(カッコ内は寄稿年月日).

- ▷大沢 晃: 二次元スペースモデリングの考察——ポイント方式空間表現による部分図形処理—— (60. 5. 16)
- ▷大沢 晃: 三次元スペースモデリングの考察——部分図形論理, 衝突検出, 隠面消去等の一貫高速処理—— (60. 5. 23)
- ▷丸山寿夫, 富田眞治, 萩原 宏: Pascal マシンとチューニングによる高速化 (60. 7. 22)
- ▷加藤常員, 仁木 滉, 小沢一雅: 連想記憶モデルによる土器図形の復元シミュレーション (60. 8. 8)
- ▷平岡良成, 坂東忠秋, 福永 泰, 平沢宏太郎, 迫田行介, 中西宏明, 馬場敬信: 汎用マイクロプログラムトランスレータ MARTRAN のコード生成方法 (60. 10. 3)

- ▷藤村直美, 牛島和夫: OS の改版による性能の変化とその評価について (60. 10. 7)
- ▷宇津宮孝一, 清水泰行: 分散型個人用計算環境のための UNIX の自然な拡張の試み (61. 2. 17)
- ▷矢部 博, 高橋 悟, 八巻直一: 分解型準ニュートン更新公式の逐次2次計画法への応用 (61. 3. 12)
- ▷井口幸洋, 向殿政男: FPLA のワンカット行量み込み (61. 4. 4)
- ▷岩井伸一: 画像の色度分布に基づく色彩画像表示法 (61. 5. 15)
- ▷嶋田 茂, 江尻正員: 日本語インタフェースを有する知識処理型マルチメディア地図情報システム GENTLE (61. 6. 5)
- ▷久世和資, 佐々政孝, 中田育男: ストリーム・プログラミングのための図式表示を利用した開発支援環境について (61. 6. 18)
- ▷高松雄三, 樹下行三: コンカレント性を用いた検査系列生成アルゴリズム (61. 7. 7)

事務局だより——ダブリンを訪ねて

9月1日から5日まで開かれた IFIP Congress '86 に, ダブリンへ行ってきました. 日本から展示会も含め 100 名近い参加者があり, アイルランド・コンピュータ学会も大へんよろこんでいました. 帰りには, 京大数理解析研の高須先生のお世話で, エジンバラ大学, ボンの GMD, パリの INRIA を訪問できました.

生れて初めてのヨーロッパの中で, 何といっても 1 週間いたダブリンが一番印象に残っています. 慣れないホテルでの夜眠られぬままに, 知人から贈られたジョイスの「ダブリン市民」を読んで, 一層その感を深くしたのかも知れません.

人口 350 万人 (静岡県), 北海道よりちょっと大きく, 北サハリンの緯度のアイルランド, そして 1922 年 (約 60 年前) に英国から独立し, 人口の半分が 25 歳以下で, 失業率が 2 割近い……と言われると, わたくしには何だか Wonderland に見えてきます. 英語が自由に話せたら, パブの若者に, いろいろ話しを聞いたのにと残念に思います.

「百聞一見に如かず」といわれる一方, 「群盲象を撫ずる」とも言われます. ちょうど数日前, 中曽根首相の, 党内研修会での講演が, 米国で物議をかもしている時だけに, わたくしにとっては, 地球上の位置だけでなく政治経済のうえでも, わが国と非常に対蹠的なアイルランドの由来を自分なりに納得できるよう調べてみたいと思っています. (1986. 9. 26 坂元)